

園長だより NO42

台風19号の通過、まだ街並みには台風の爪痕が残っています。13都県に出された大雨特別警報、千葉県には発令されませんでした。他県では河川の決壊、氾濫で尊い命が亡くなり心が痛みます。

亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、一日も早く復旧、復興されることをお祈りいたします。

鎌ヶ谷市では一部の地域で避難勧告が発令されたものの大きな被害が出なかったことが幸いです。前回の台風15号、今回の19号の体験から再度、災害時の対応を考えていくことが大切だと痛感します。

鎌ヶ谷市の洪水ハザードマップ

おそらく市民の周知度は低いのではないのでしょうか。「そんなのあるの?」「どこでその詳細を知ることができるの?」という具合ではないのでしょうか。市のホームページからの閲覧が一番早い情報収集となります。

市内の河川及び主要水路の氾濫や浸水する範囲や深さ及び避難場所を示した地図が作成されています。また避難の内容、避難時の心得などが掲載され避難時の行動を分かりやすく説明しています。また市作成の鎌ヶ谷ガイドマップでは市内の公共施設や市内の観光、見どころを紹介するもの(表面)と(裏面)には防災ガイドで市内の避難場所(緊急避難場所)



も掲載されています。ハザードマップと同様、市ホームページから閲覧、ダウンロードできます。また安全対策課が作成した防災ハンドブックもありますので閲覧、ダウンロードして家庭で備えていただければと思っています。災害の後だからこそ意識を高く持っていくことが必要です。



「かぜさん おこっているの」
「子ども達はどう感じたのかな」
子どもなりに感じた心に
共感し親子での対話を

氾濫する河川の存在

浸水が1.0mから2.0mの区域もあります。北部地区の大場川や南部地区の大伯川や中沢川、浸水0.5mの区域は市内の主要水路及び地盤の低い地域でいたるところにあります。保育園近く、地盤の低い地域ではたびたび冠水が起きます。保育園脇を通る大場川へつながる主要水路も氾濫こそありませんが水位が上がることもあり浸水地域に指定されています。

県内に大雨特別警報が出ていれば他県で起こった河川の決壊、氾濫がこの地域でも起こることが予測されました。

「大丈夫だった」「たいしたことがなかった」と安堵している場合ではないかもしれません。

今一度、防災への対策、対応を考えていくことが子ども達の命を守ることに直結することにつながります。



迅速な決断

12日(土)の台風の接近、上陸、過去に甚大な被害を与えた狩野川台風よりも大きな被害が予測されました。保育園では土曜日保育を利用するご家庭に文書と口頭で家庭保育の協力をお願い致しました。すべての保護者の方々が理解していただき土曜保育の利用はなくなりました。(休園に準ずる扱い)

ご協力いただいたことに感謝するとともに安全確保について十分配慮できたことにつながりました。

市内の民間保育園はほぼ休園、公立保育園においては13時以降を休園にする対応でした。市内民間保育所に公立の対応通知が来たのが前日の16時近くです。やはり行政は決断までに時間がかかりすぎると印象を受けました。

市が一日開所から13時に閉園にすることの決断は評価できるもののやはり、休園の措置をとることが子ども達の命を守ることにつながる。市でも臨時休園の判断基準を協議する方向を示していますが、民間保育園の指針となるような基準を率先して作り示していただきたいと願っています。

隣接する市の公立保育園では7時から19時まで開所するとしたが台風、交通網の運休などから利用者が降園した13時~15時に閉園した園もあったという。ただ利用者がいれば19時まで開園とする方針は変えられなかった。なんとも後手後手なその場ありきの考え

で現場は混乱していたという。台風の上陸が早まっていれば大きな事故につながったに違いありません。

備えあればとはよく言ったものである。休園の判断も大切な備えであるはずである。

今回の台風で自治体が臨時休園の基準をつくり、開園する保育園の限定などを検討する必要が出てくることでしょうか。また社会全体で在宅勤務(自宅待機)や災害時における休暇取得をとりやすい環境の整備を進めていくことも必須と考えます。

それぞれが支える仕組みを持つ

つい先日、ラグビーワールドカップ

日本対スコットランド戦が行われました

台風の通過後、各地での大きな被害、全容すら把握できていない段階で被災された方々の思いをよそに「試合をやるのか」と多くの批判もありましたが試合は開催されました。

結果は日本の勝利、試合後のインタビューでは選手すべてが亡くなられた方々の冥福を祈り被災された方々に「勇気を与えたい」と口々にコメントした。「僕らにできることは頑張っている姿をみせること」と言う。被災地では試合観戦できる状態でない方がいるのは重々承知しているが気持ちは繋がっている。そんな気持ちの連鎖が復興の力になっていくことは間違いありません。

(園長 廣部 信隆)